

大阪医科大学学報

第42号 平成11年11月



東門附近（大楠）

◆目

規程関係	3～11
人事 { 法人、採用、退職、昇任、異動、休職 復職、委嘱・解嘱、海外渡航 }	12～15
学債・寄附金関係	16～21
学位記授与	22
平成12年度入試要項	23～26
教室紹介	27～28

次◆

医学の散歩道	29
短期海外留学記	30～31
学内行事	31～35
会議・行事予定	35～37
附属病院関係	38～40
保健管理室からのお知らせ	41
俳句	42

規 程 関 係

学校法人大阪医科大学寄附行為細則の一部改正について

事務組織の改組に伴い、学校法人大阪医科大学寄附行為細則が次のとおり改正されました。

1. 第1条第1号中「第14条第1項第1号に規定する評議員」について「事務局長」を「総務部長」に改める。
2. この改正は平成11年7月1日から施行する。

大阪医科大学附属看護専門学校長選考規程の制定について

大阪医科大学附属看護専門学校長選考規程が次のとおり制定されました。

大阪医科大学附属看護専門学校長選考規程

- 第1条** この規程は、大阪医科大学附属看護専門学校長（以下「学校長」という）の選考に関し、必要な事項を定める。
- 第2条** 学校長は、理事会の議を経て理事長が任命する。
- 第3条** 学校長予定者は、看護専門学校長たるにふさわしい学識経験と管理能力を有する者でなければならない。
2. 学校長の候補者は、本学教授及び医学・看護学に携わる学識経験者とする。
- 第4条** 学校長の任期は3年とし、再任を妨げない。ただし、通算6年を超えることはできない。
2. 任期中に欠員となったときは、後任者の任期は、前任者の残存期間と同一とする。
- 第5条** この規程の改廃は、理事会がこれを行う。

附 則

この規程は、平成11年9月4日から施行する。

学校法人大阪医科大学事務処理規程の一部改正について

事務組織の改組に伴い、学校法人大阪医科大学事務処理規程が次のとおり改正されました。

(全文掲載)

学校法人大阪医科大学事務処理規程

(目的)

- 第1条** この規程は学校法人大阪医科大学（以下本法人という）の事務処理の円滑を期するため、事務執行の責任を明確にし、その組織的能率的運営をはかることを目的とする。

(事務組織)

第2条 本法人の事務を処理するため事務組織を置く。

2. 内部組織並びに事務分掌は別に定める。

(事務処理の原則)

第3条 本法人の事務処理は、所属長を経由し、原則として組織、人事及び経営管理に関する事項及び財務負担を伴う事項は理事長の決裁を、学事に関する事項は学長の決裁を、看護専門学校に関する事項については校長の決裁を受けるものとする。

(事務の連絡)

第4条 分掌事務の処理にあたって他の部課に関連のある事項については、その関連部課に合議しなければならない。

(職員の職責)

第5条 職員は上司の命を受けて、所掌事務を迅速且つ正確に処理しなければならない。

(事務の補助業務)

第6条 職員は他の部課の分掌事務についても、上司の命がある場合は補助処理をしなければならない。

(規程の変更)

第7条 この規程の変更は、理事会の承認を得なければならない。

附 則

この改正は、平成11年7月1日から施行する。

学校法人大阪医科大学事務組織並びに事務分掌規程の一部改正について

事務組織の改組に伴い、学校法人大阪医科大学事務局の組織並びに事務分掌規程が、学校法人大阪医科大学事務組織並びに事務分掌規程に名称を変更のうえ、次のとおり改正されました。(全文掲載)

学校法人大阪医科大学事務組織並びに事務分掌規程

学校法人大阪医科大学の事務組織の分掌を次のとおり定める。

(目的)

第1条 学校法人大阪医科大学（以下法人という）の組織の事務分掌について必要な事項を定めると共に、事務の能率的運営を図ることを目的とする。

(組織)

第2条 前条の事務を行うため、次の部、課等を置く。

総 務 部	企画課
	総務課
	人事課
	財務課
	管財用度課
(学 生 部)	学務課
病院事務部	病院サービス課

	医事課
	施設課
	栄養給食課
病院薬剤部	薬剤課
病院看護部	
病院医療情報部	
図書館	図書館課
附属看護専門学校	

第3条 部、課にそれぞれ長を置き、必要に応じ部に部長代理、課に課長（事務長）代理を置くことができる。

2. 診療部門その他の職員については、技師長、技師長代理、婦長を置くことができる。

第4条 前条の規定の他、必要があるときは専門職として、部に担当部長、参事、課に担当課長（技師長）、主幹、課長（技師長）補佐、副主幹、主任及び看護部に副部長、担当婦長、主任、主任代理、臨床指導者を置くことができる。

（分掌事務）

第5条 各課においては、次の事務を所掌する。

総 務 部

- 企 画 課**
1. 法人の経営に付帯する組織、人事及び予算の大綱の作成並びに企画、立案、執行に関すること
 2. 施設拡充及びこれに付帯する事務に関すること
 3. 監査に付帯する事務に関すること
 4. 法人に関わる広報に関すること
 5. 法人の経営に付帯する調査に関すること
 6. 関連会社の管理・連絡に関すること
 7. その他、法人の企画・調整に係る事務全般に関すること

- 総 務 課**
1. 理事会及び評議員会の事務に関すること
 2. 役員の秘書業務に関すること
 3. 理事長、常務理事、学長等の印章の管理に関すること
 4. 官公署等に対する届、諸報告及び手続に関すること
 5. 規則の制定、改廃の手続に関すること
 6. 法人を当事者とする訴訟に関すること
 7. 文書に関すること
 8. 各種助成金、補助金の申請の事務に関すること
 9. 叙位叙勲事務に関すること
 10. 郵便物及び宅配物の受理、発信に関すること
 11. 郵券等の管理に関すること
 12. 総務の事項に係る各種委員会の事務に関すること
 13. 学内の保安警備に関すること

14. 警備委託会社の管理に関する事
15. 大学及び病院内の駐車、駐輪場の管理に関する事
16. 用務業務に関する事
17. その他、他課に属さない総務的事項に関する事

人 事 課

1. 職員の人事計画案の作成に関する事
2. 職員の募集、採用試験に関する事
3. 職員の採用、退職及び休職の事務に関する事
4. 職員の採用、退職、異動等の発令に関する事
5. 職員の昇級、昇格等に関する事
6. 職員の表彰及び懲戒に関する事
7. 職員の出張、留学に関する事
8. 職員の教育、研修に関する事
9. 人事・給与等の調査、統計及び諸報告に関する事
10. 職員の給与、賞与及び退職金に関する事
11. 職員の人事記録の管理及び職員名簿の作成に関する事
12. 職員の服務、労務管理に関する事
13. 職員の各種証明書交付に関する事
14. 職員の健康管理、福利厚生及び社会保険、労働保険に関する事
15. 客員教授、非常勤講師に関する事
16. 名誉教授、功労教授に関する事
17. 派遣・委託者等の契約に関する事
18. 副手、専攻医等の事務に関する事
19. 研究補助員の事務に関する事
20. 人事的事項に係る各種委員会の事務に関する事
21. その他、人事、給与、厚生に係る事務全般に関する事

財 務 課

1. 法人の財務及び経理に関する事
2. 予算の編成及び決算の事務に関する事
3. 資金の計画及び運用管理に関する事
4. 会計帳簿の記帳、財務諸表の作成及びそれらの保管に関する事
5. 予算の執行の管理に関する事
6. 会計監査に関する事
7. 経常費補助金等の申請及び報告資料の統括調整に関する事
8. 財務調査、統計及び諸報告に関する事
9. 金銭の出納及び保管に関する事
10. 各種補助金、助成金の出納に関する事
11. 学生生徒納付金の収納に関する事
12. 有価証券等の保管に関する事
13. 借入及び償還の事務に関する事
14. 税務に関する事

15. 学校債、寄附金の事務に関すること
16. 財務的事項に係る各種委員会の事務に関すること
17. その他、経理・会計に係る事務全般に関すること

管財用度課

1. 大学及び病院の設備、備品等の支出の予算適合性を審査すること
2. 大学及び病院の予算の編成に関する資料及び情報収集と予算要望書資料作成に関すること
3. 大学及び病院の建物及び附属設備の改造及び営繕に関すること
4. 大学及び病院に使用する物品の調達及び管理並びに営繕に関すること
5. 不動産の統括管理に関すること
6. 固定資産関係の決算資料作成に関すること
7. 電話に係る保守業務に関すること
8. 講座研究費、受託研究費、奨学寄附金に関すること
9. 損害保険の事務に関すること
10. 土地、建物及び附属施設の管理、賃貸及び使用に関すること
11. 土地、建物及び附属施設等の官公署等への届、諸報告及び手続に関すること
12. 管財用度に係る業務委託に関すること
13. 大学及び病院の施設の清掃及び洗濯に関すること
14. 水質検査、排水処理及び医療廃棄物処理に関すること
15. 会議室等の管理、使用に関すること
16. 売店等の運営及びテナントの管理、監督に関すること
17. 管財用度事項に係る各種委員会の事務に関すること
18. その他、管財・用度に係る事務全般に関すること

学 務 課

1. 医学部、大学院学則等関連する諸規程に関すること
2. 医学部学生、大学院学生の事務に関すること
3. 学位事務に関すること
4. 入学、進級、卒業、退学等の事務に関すること
5. 奨学金の貸与に関すること
6. 研究生、聴講生、外国人留学生に関すること
7. 学生の厚生補導、福利厚生に関すること
8. 教育施設、器材の管理に関すること
9. 教授会その他の教学関係会議の事務に関すること
10. 公開講座に関すること
11. 解剖用遺体及びさつき会、慰霊祭の事務に関すること
12. 病理解剖の事務に関すること
13. 医師国家試験の事務に関すること
14. 卒業生、同窓会及びPA会（保護者会）との連絡事務に関すること
15. さわらぎキャンパスの事務に関すること
16. 教学事項に係る各種委員会の事務に関すること
17. 大阪医科大学医学会の事務に関すること

18. その他、教学及び学生に係る事務全般に関すること

病院事務部

病院サービス課

1. 病院長、病院等の印章の管理に関すること
2. 病院の人事及び労務事務に関すること
3. 病院のサービス及び管理運営に係る事務に関すること
4. 病院長の秘書業務に関すること
5. 病院の官公署等に対する届、諸報告及び手続に関すること
6. 病院内の文書に関すること
7. 郵便物及び宅配物の受理、発信に関すること
8. 郵券等の管理に関すること
9. 外来・入院患者の医療相談事項に関すること
10. 医療事故及びその他病院において生じた事故並びに医療に係る係争に関すること
11. 関連病院等及び病診連携等に関すること
12. 患者等を対象とする公開講座に関すること
13. 臨床研修医の事務に関すること
14. 院内感染対策の事務に関すること
15. 病院用務業務に関すること
16. 病院内会議室等の管理、使用に関すること
17. 病院の運営管理に係る各種委員会の事務に関すること
18. 病院の他課に属さない庶務的事項に関すること

医 事 課

1. 外来・入院患者の受付等に関すること
2. 入退院の事務に関すること
3. 外来・入院患者の診療費算定及び請求書作成に関すること
4. 外来・入院患者の各種保険の申請・請求事務に関すること
5. 外来・入院患者のカルテ等管理に関すること
6. 外来・入院の調査・統計に関すること
7. 病院診療費の収納等の会計事務に関すること
8. 医事業務に係る派遣・委託者等の管理に関すること
9. 医事業務に係る委員会の事務に関すること
10. その他、外来・入院患者の医療事務に関すること

施 設 課

1. 機械、設備等の運転、保守点検に関すること
2. 気缶、水道、ガス設備の保守点検に関すること
3. 電気設備等の保守点検に関すること
4. 諸機械類の維持修繕に関すること
5. 防火、防災設備に関すること

6. その他、施設に関すること

栄養給食課

1. 患者給食の栄養に関すること
2. 患者給食の調理に関すること
3. 課員の衛生管理に関すること
4. 集・配膳等に関すること
5. 看護婦の給食に関すること
6. 患者及び附属看護専門学校学生の栄養指導に関すること
7. その他、栄養給食に関すること

病院薬剤部

1. 外来及び入院患者の調剤業務に関すること
2. 薬品の購入、管理に関すること
3. 製剤及び薬品情報、試験に関すること

薬 剤 課

1. 部内の庶務的事項に関すること

病院看護部

1. 看護事務に関すること
2. 看護婦等の庶務的事項に関すること
3. 看護婦等の福利厚生に関すること

病院医療情報部

1. 医療情報の事務全般に関すること
2. 病院医療情報システムに係る維持管理に関すること
3. 全診療システムに係る企画、開発及び運用等に関すること

図 書 館

図書館課

1. 図書の選書、発注、受入、支払、目録作成、雑誌管理、閲覧等に関すること
2. 医学、医療、看護情報等のサービス提供に関すること
3. 学習、教育、研究等の支援に関すること
4. 図書館の広報に関すること
5. 図書館業務の総務的事項に関すること
6. 情報機器に係る維持管理に関すること
7. 図書館運営に係る委員会の事務に関すること
8. その他、図書館事務全般に関すること

附属看護専門学校

1. 運営会議の事務に関すること
2. 学校長の印章の管理に関すること

3. 文書に関すること
4. 学校の規則制定、改廃及び法人への手続きに関すること
5. 官公署に対する届、諸報告及び補助金申請手続きに関すること
6. 職員の服務、労務管理に関すること
7. 学校の予算の編成及び執行の管理に関すること
8. 施設の管理及び物件の調達、管理、営繕等に関すること
9. 入学、卒業、授業、試験等に係る事務に関すること
10. 学生関係原簿の整理、保管に関すること
11. 学生の福利厚生のお事務に関すること
12. 看護婦国家試験のお事務に関すること
13. 図書室のお事務に関すること
14. その他、学校の事務に関すること

附 則

この改正は、平成11年7月1日から施行する。

学校法人大阪医科大学事務分掌内規の制定について

事務組織の改組に伴い、学校法人大阪医科大学事務分掌内規が、次のとおり制定されました。

学校法人大阪医科大学事務分掌内規

- 第1条** この内規は「学校法人大阪医科大学の事務組織並びに事務分掌規程」第2条及び第3条の事務分掌区分を明確にし、法人事務の組織的、能率的運営を図ることを目的とする。
- 第2条** 前条の目的を達成するため、学校法人大阪医科大学の事務組織並びに事務分掌規程の内規を定め、職制の権限及び職務の内容を明確にするものとする。
- 第3条** 部長は、理事長の命を受け、大学の事務を統括するとともに、別に定める学長の権限に属する事項については、学長の指揮を受けて当該事項を掌理する。
- 第4条** 部長は、所掌事務を処理し、所属職員を指揮監督する。
2. 部長代理は、上司の命に従い、部長を補佐し、部長に事故ある時は、その職務を代理する。
- 第5条** 課長及び事務長は、上司の命に従い、所掌事務を処理し、所属職員を指揮監督する。
2. 課長代理は、上司の命に従い、課長を補佐し、課長に事故ある時は、その職務を代理する。
 3. 前項の規定により、課長の職務を代理する場合において、課長代理が2名以上あるときは、あらかじめ課長が定めた順序により、その職務を代理する。
- 第6条** 課の分掌事務及び所属職員の分担事務は、その所掌する課長が定める。
- 第7条** 必要があるときは専門職として、部に担当部長及び参事、課に担当課長、主幹、課長補佐、副主幹及び主任を置くことができる。
2. 担当部長及び参事は、上司の命に従い、部の専門的分掌事務を処理する。
 3. 担当課長及び主幹は、上司の命に従い、課の専門的分掌事務を処理する。
 4. 課長補佐、副主幹及び主任は、上司の命に従い、課の事務を処理する。

附 則

この内規は、平成11年7月1日から施行する。

学校法人大阪医科大学経営専門委員会規則の制定について

学校法人大阪医科大学経営専門委員会規則が、次のとおり制定されました。

学校法人大阪医科大学経営専門委員会規則

(目的)

第1条 この規則は、学校法人大阪医科大学に経営専門委員会（以下、委員会という。）を設置し、本法人の経営強化を図ることを目的とする。

(組織)

第2条 委員会は、次の委員で構成する。

- (1) 理事会で選出された理事、若干名
- (2) 理事長が指名した教職員、若干名
2. 理事長は、必要に応じて学外の学識経験者を委員に加えることができる。

(任期)

第3条 委員の任期は、1期1年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第4条 委員長は、理事長の指名とし、その任期は委員在職中とする。

2. 委員長に事故あるときは、理事長が代理を指名し、その任期は残任期間とする。

(策定項目)

第5条 委員会は、次の策定項目の審議を行い、理事会へ答申する。

- (1) 中・長期計画の策定
- (2) 組織機構の改革案の策定
- (3) 人事制度の改革案の策定
- (4) 予算編成・統制計画案の策定
- (5) 資金計画・資産運用計画案の策定
- (6) 土地・建物等取得、管理計画案の策定
- (7) 危機管理体制の構築

(審議・運営)

第6条 委員会は、委員長が策定項目毎に委員を組織し、審議を行う。

2. 委員会の事務は、総務部企画課が行う。ただし、項目によりその事務を分掌する担当課が行うことができる。

(改廃)

第7条 この規則の改廃は、理事会がこれを行う。

附 則

この規則は、平成11年10月1日から施行する。

人 事

〔法 人〕

就 任

理 事 植木 實 11. 1

〔採 用〕

助 手 東尾 聡子 (産婦人科学) 8. 1
 助 手 安田 恵美 (中央検査部) ♪
 技 術 員 矢守 好美 (輸 血 室) 8.16
 講 師 河田 了 (耳鼻咽喉科学) 9. 1
 助 手 佐々木伸一 (内 科 学 II) ♪
 ♪ 堀本 仁士 (胸部外科学) ♪
 ♪ 青木 淳 (脳神経外科学) ♪
 ♪ 廣辻 徳彦 (眼 科 学) ♪
 ♪ 野原 丈裕 (附 属 病院) ♪
 契 約 職 員 菊田真理子 (総務部総務課) ♪
 看 護 婦 灰塚美佐枝 (病院看護部) 9.16
 助 手 廣田龍一郎 (生 理 学 II) 10. 1
 ♪ 三間 千史 (衛生学・公衆衛生学) ♪
 ♪ 足立 至 (放射線医学) ♪
 ♪ 堀 容子 (産婦人科学) ♪
 技 術 員 平松 潔子 (輸 血 室) ♪
 (臨床検査技師)
 用 務 員 土谷 清一 (総務部総務課) ♪
 助 手 有吉 靖則 (口腔外科学) 11. 1

〔退 職〕

准看護婦 辻尾 百子 (病院看護部) 7.22
 講 師 織田 行雄 (衛生学・公衆衛生学) 7.31
 専任教員 安德 秀子 (附 属 看護
 専 門 学 校) ♪
 事 務 員 梅田めぐみ (総 務 部
 管財用度課) ♪
 看 護 婦 馬場 美幸 (病院看護部) ♪
 ♪ 秦 涼子 (♪) ♪
 講 師 山本 雄三 (耳鼻咽喉科学) 8.31
 助 手 小島 敬史 (内 科 学 II) ♪
 ♪ 中尾 圭一 (胸部外科学) ♪
 ♪ 大谷 昌裕 (附 属 病院) ♪
 看護婦主任 山下 京子 (病院看護部) ♪
 事 務 員 中島 理恵 (病院事務部
 医 事 課) 9. 9
 助 手 東 治人 (泌尿器科学) 9.15
 講 師 杉本 勝一 (口腔外科学) 9.30
 助 手 木村 澄子 (解 剖 学 II) ♪
 ♪ 新井 基弘 (脳神経外科学) ♪

助 手 清木 康雄 (産婦人科学) 9.30
 看 護 婦 眞壁 典子 (病院看護部) ♪
 ♪ 丸山 尚子 (♪) ♪
 看 護 助 手 斎藤 昭子 (♪) ♪
 嘱 託 三笠 昭三 (法医学教室) ♪
 技 術 員 藤埜三千代 (放 射 線 科) 10.31
 (診療放射線技師)
 看 護 婦 松本 孝子 (病院看護部) ♪

〔昇 任〕

産婦人科学 猪木 千春 (学 内 講 師) 7.16
 講 師
 法 医 学 西尾 元 (助 手) 8. 1
 講 師
 総務部財務課 福田 謙二 (総務部財務課
 課 長 補 佐 主 任) ♪
 病院事務部医事課 松崎美津代 (病院事務部医事課
 課 長 補 佐 主 任) ♪
 総務部管財用度課 小林 洋樹 (総務部管財用度課
 主 任 事 務 員) ♪
 病院事務部医事課 北尾 里江 (病院事務部医事課
 主 任 事 務 員) ♪
 ♪ 西田 祐子 (♪) ♪
 ♪ 藤原 和恵 (♪) ♪
 ♪ 中谷 尚文 (♪) ♪
 内 科 学 III 田中 孝生 (講 師) 10. 1
 助 教 授
 内 科 学 III 出口 寛文 (♪) ♪
 診療助教授

〔異 動〕

病院サービス課 中村喜代美 (病院事務部医事課
 事 務 員 事 務 員) 8. 1
 ♪ 浅田恵美子 (♪) ♪
 中央手術部技術員 乾 絹子 (パンスライク技術員
 (臨床工学技士) (臨床工学技士) ♪

〔休職・復職〕

(休 職)

看 護 婦 渡壁 朱實 (病院看護部) 7.16

(復 職)

助 手 植田 正嗣 (産婦人科学) 9. 1

〔委嘱・解嘱〕

(委 嘱)

学内講師

助 手 喜多野郁夫 (生 理 学 II) 10. 1

助 手 福田 泰樹 (内 科 学 I)	10.16	教 授 佐野 浩一 (微 生 物 学)	8.1
病院経営検討委員会委員		助 教 授 東 克 (生 物 学)	〃
薬 剤 部 長 竹中 洋 (耳鼻咽喉科学)	4.1	講 師 後藤 俊幸 (微 生 物 学)	〃
教 授 橋口 直栄 (病院事務部)	7.1	助 手 日外 知行 (I C U)	〃
自己点検・評価組織委員会委員		学長予定者選考規程改正委員会委員長及び学長辞任請求規程改正委員会委員長	
学 務 課 久保 克己 (学 生 部)	7.1	教 授 森 浩志 (病 理 学 II)	9.29
課 長 代 理 門田 雅人 (総 務 部)	〃	学長予定者選挙管理委員会委員	
自己点検・評価組織委員会小委員会 (附属病院部会)		教 授 大槻 勝紀 (解 剖 学 I)	8.1
病院サービス課長 出坂 秀雄 (病院事務部)	7.1	〃 河野 公一 (衛生学・公衆衛生学)	〃
医 事 課 藤川 光昭 (病院事務部)	〃	〃 鈴木 廣一 (法 医 学)	〃
課 長 補 佐	〃	〃 北浦 泰 (内 科 学 III)	〃
平成11年度同和教育推進委員会委員		助 教 授 伊東 重徳 (化 学)	〃
学 務 課 久保 克己 (学 生 部)	7.1	〃 渡辺 正仁 (解 剖 学 II)	〃
課 長 代 理	〃	〃 中川 俊正 (病態検査学)	〃
基金活動実務委員会委員		〃 島田 恭光 (リハビリテーション科)	〃
事 業 推 進 西田 伸忠 (総 務 部 付)	7.1	講 師 渡邊 房男 (化 学)	〃
担 当 課 長	〃	〃 中張 隆司 (生 理 学 I)	〃
病院事務部長代理 橋口 直栄 (病院事務部)	〃	〃 福西 恵一 (病 理 学 I)	〃
新総合棟 (7号館) 建築実務委員会委員		〃 前田 環 (病 理 学 II)	〃
管財用度課長 楠 善行 (総 務 部)	7.1	助 手 水口 博之 (医 化 学)	〃
大阪医科大学整備・充実事業推進委員会委員		〃 瀧谷 公隆 (小 児 科 学)	〃
薬剤部問題検討委員会委員		〃 山本 和宏 (放射線医学)	〃
病院事務部長代理 橋口 直栄 (病院事務部)	7.1	〃 村尾 浩 (リハビリテーション科)	〃
カテーテル (血管造影) 検討委員会委員		同上委員長	
医事課長代理 福島 猛 (病院事務部)	7.1	教 授 大槻 勝紀 (解 剖 学 I)	9.8
管財用度課長 中尾 基克 (総 務 部)	〃	大阪医科大学70年史編集委員会委員	
課 長 補 佐	〃	企 画 課 長 成松 正治 (総 務 部)	8.4
看護事務主任 松岡 道弘 (病院看護部)	〃	総 務 課 長 門田 雅人 (〃)	〃
病院事務部長付 西川 昭	〃	内科診療科編成委員会委員	
医療材料選定委員会委員		教 授 佐々木進次郎 (胸部外科学)	8.23
管財用度課長 中尾 基克 (総 務 部)	7.1	〃 勝 健一 (内 科 学 II)	〃
課 長 補 佐	〃	〃 北浦 泰 (内 科 学 III)	〃
看護事務主任 松岡 道弘 (病院看護部)	〃	内科カリキュラム制作委員会委員	
院外処方推進委員会委員		教 授 勝 健一 (内 科 学 II)	8.23
事 務 員 北尾 里江 (病院事務部)	7.1	〃 北浦 泰 (内 科 学 III)	〃
医 事 課	〃	助 教 授 高松 順太 (内 科 学 I)	〃
治験審査委員会委員		〃 竹田 喜信 (内 科 学 II)	〃
財 務 課 長 大槻 哲彦 (総 務 部)	7.1	診 療 助 教 授 石原 正 (内 科 学 I)	〃
看護部長代理 神谷美佐子 (病院看護部)	〃	〃 平田 一郎 (内 科 学 II)	〃
病院情報システム構築委員会委員		講 師 篠田 恵一 (内 科 学 I)	〃
病院事務部長代理 橋口 直栄 (病院事務部)	7.1	〃 北岡 治子 (〃)	〃
看護事務主任 松岡 道弘 (病院看護部)	〃	〃 田中 孝生 (内 科 学 III)	〃
平成11年・12年度機器共同利用センター運営委員		〃 出口 寛文 (〃)	〃
助 手 瀧谷 公隆 (小 児 科 学)	7.21	学 内 講 師 関 庚燁 (内 科 学 I)	〃
学長予定者選考規程改正委員会委員及び学長辞任請求規程改正委員会委員		〃 三宅 宗典 (小 児 科 学)	〃

助 手 長谷川 稔 (内 科 学 II) 8.23

〃 岩尾 憲明 (病 院 助 手) 〃

非常勤講師 森田 大 〃

講 師 島本 史夫 (内 科 学 II) 9. 8

総合試験委員会委員

講 師 伊藤 尚 (耳鼻咽喉科学) 9. 1

内科学 (I) 講座担当教授選考委員会委員

教 授 勝 健一 (内 科 学 II) 9. 8

〃 北浦 泰 (内 科 学 III) 〃

〃 玉井 浩 (小 児 科 学) 〃

〃 佐々木進次郎 (胸部外科学) 〃

〃 田嶋 定夫 (形成外科学) 〃

助 教 授 長澤 史朗 (脳神経外科学) 〃

診療助教授 石原 正 (内 科 学 I) 〃

講 師 杉野 正一 (〃) 〃

〃 黒岩 敏彦 (脳神経外科学) 〃

助 手 森本 大成 (胸部外科学) 〃

〃 折野 一郎 (周産期センター) 〃

同上委員長

教 授 佐々木進次郎 (胸部外科学) 9.22

平成11年・12年度機器共同利用センター運営委員会委員

助 手 岩本 勇作 (泌尿器科学) 9.16

組織えDNA実験に関する安全委員会委員

教 授 北浦 泰 (内 科 学 III) 10. 6

脳神経外科学講座担当教授選考委員会委員

教 授 谷川 允彦 (一般消化器外科学) 10.20

〃 佐々木進次郎 (胸部外科学) 〃

〃 阿部 宗昭 (整形外科科学) 〃

〃 竹中 洋 (耳鼻咽喉科学) 〃

〃 田嶋 定夫 (形成外科学) 〃

助 教 授 末吉 公三 (放射線医学) 〃

診療助教授 近藤敬一郎 (胸部外科学) 〃

講 師 濱田 潤 (眼 科 学) 〃

学 内 講 師 梶本 宜永 (脳神経外科学) 〃

助 手 古玉 大介 (内 科 学 I) 〃

〃 田村 陽史 (脳神経外科学) 〃

(解 嘱)

自己点検・評価組織委員会委員

庶務課長 成松 正治 (総 務 部) 6.30

教務課長 西田 伸忠 (〃) 〃

自己点検・評価組織委員会小委員会 (附属病院部会)

管理課長 吉間 正男 (病院事務部) 6.30

医事第二課 津田 正博 (〃) 〃

課長補佐

平成11年度同和教育推進委員会委員

教務課長 西田 伸忠 (総 務 部) 6.30

新総合棟 (7号館) 建築実務委員会委員

病院事務部長 平野 勝 (病院事務部) 6.30

企画室長代理 久保 克己 (総 務 部) 〃

院外処方推進委員会委員

事 務 員 藤岡 俊吾 (病院事務部) 6.30
医 事 課

基金活動実務委員会委員

病院事務部長 平野 勝 (病院事務部) 6.30

総務部長代理 坂本 詔志 (総 務 部) 〃

大阪医科大学整備・充実事業推進委員会 薬剤部問題検討委員会委員

病院情報システム構築委員会委員

病院事務部長 平野 勝 (病院事務部) 6.30

看護学科設置準備委員会委員

病院西側拡張建築委員会委員

創立70周年記念事業実行委員会委員

総務部長代理 坂本 詔志 (総 務 部) 6.30

カテーテル (血管造影) 検討委員会委員

医療材料選定委員会委員

用度課課長補佐 権藤 眞治 (病院事務部) 6.30

平成11年・12年度機器共同利用センター運営委員会委員

助 手 芦田 明 (小 児 科 学) 7.20

〔経営専門委員会〕

1. 中・長期計画策定専門委員会委員

理 事 島田 眞久 10.26

〃 佐々木進次郎 〃

〃 勢川瑠美子 〃

〃 藤本 正三 〃

教 授 鏡山 博行 (医 化 学) 〃

〃 佐野 浩一 (微 生 物 学) 〃

〃 清金 公裕 (皮 膚 科 学) 〃

〃 植林 勇 (放射線医学) 〃

病院事務部長代理 橋口 直栄 (病院事務部) 〃

看護部長代理 神谷美佐子 (病院看護部) 〃

企画課長 成松 正治 (総 務 部) 〃

薬 剤 課 長 竹村喜一郎 (病院薬剤部) 〃

2. 組織・人事制度策定専門委員会委員

理 事 美濃 眞 10.26

教 授 山崎 隆司 (ド イ ツ 語) 〃

〃 鈴木 廣一 (法 医 学) 〃

〃 阿部 宗昭 (整形外科科学) 〃

〃 竹中 洋 (耳鼻咽喉科学) 〃

講 師 森田 眞照 (一般消化器外科学) 〃

企画課長 成松 正治 (総務部企画課) 〃

病院サービス課長 出坂 秀雄 (病院事務部) 〃

看護事務課長 齊藤千鶴子 (病院看護部) 10.26

3. 財政計画策定専門委員会委員

理 事 東 郁郎 10.26

〃 原 亮多 〃

教 授 大槻 勝紀 (解剖学Ⅰ) 〃

〃 北浦 泰 (内科学Ⅲ) 〃

〃 植木 實 (産婦人科学) 〃

助 教 授 山本 隆一 (病院医療情報部) 〃

病院事務部長代理 橋口 直栄 (病院事務部) 〃

財 務 課 長 大槻 哲彦 (総 務 部) 〃

看 護 婦 長 富成よし子 (病院看護部) 〃

跡地利用委員会委員長

教 授 竹中 洋 (耳鼻咽喉科学) 10.26

同上委員

教 授 玉井 浩 (小児科学) 〃

〃 佐々木進次郎 (胸部外科学) 〃

助 教 授 山本 隆一 (病院医療情報部) 〃

病院事務部長代理 橋口 直栄 (病院事務部) 〃

看護部長代理 神谷美佐子 (病院看護部) 〃

〔海外渡航〕

林 秀行 (医化学助教授)
アメリカ (ボストン) 7.24～7.29

谷川 允彦 (一般・消化器外科学教授)
アメリカ (サンタモニカ) 8. 1～8.10

相馬 義郎 (生理学Ⅰ助手)
アメリカ (ニューメキシコ・ロサンゼルス) 8. 4～8.24

岡村 武彦 (神経精神医学講師)
ドイツ (ハンブルグ) 8. 5～8.15

西尾 元 (法医学教室講師)
アメリカ (ロサンゼルス) 8.21～8.29

南 敏明 (麻醉科学助手)
オーストリア (ウィーン) 8.21～8.29

東 克 (生物学助教授)
カナダ (カルガリー) 8.22～8.30

水口 博之 (医化学助手)
アメリカ (ボストン・ダラス) 8.30～9. 3

後藤 俊幸 (微生物学講師)
韓国 (テグ) 8.30～9. 2

河野 公一 (衛生学・公衆衛生学教授)
オーストリア・スイス (ウィーン・ジュネーブ) 9. 3～9.14

勝 健一 (内科学Ⅱ教授)

平田 一郎 (〃 診療助教授)

滝内比呂也 (〃 学内講師)

台湾 (台北) 9. 8～9.10

大槻 勝紀 (解剖学Ⅰ教授)
イタリア (ローマ) 9.10～9.17

島田 真久 (学長)

渡邊 正仁 (解剖学Ⅱ助教授)

伊藤 裕子 (解剖学Ⅰ講師)

小西 正良 (解剖学Ⅱ 〃)

玉山 卓己 (〃 助手)

イタリア (ローマ) 9.10～9.18

澤田 吉英 (胸部外科学学内講師)

オーストラリア (メルボルン) 9.11～9.16

佐々木進次郎 (胸部外科学教授)

オーストラリア (メルボルン) 9.11～9.17

上田 陽彦 (泌尿器科学助教授)

ベルギー (ブリュッセル) 9.20～9.25

宮崎 瑞夫 (薬理学教授)

中国 (杭州) 9.20～9.27

千原精志郎 (心理学教授)

松村 人志 (神経精神医学講師)

江村 成就 (〃 助手)

ドイツ (ドレスデン) 10. 1～10.11

田中 源重 (麻醉科学講師)

アメリカ (ダラス) 10. 8～10.14

宇田るみ子 (麻醉科学助手)

アメリカ (ダラス) 10. 9～10.13

米田 博 (神経精神医学教授)

堺 潤 (〃 助手)

康 純 (〃)

稲田 泰之 (〃)

アメリカ (モントレー) 10.11～10.20

山本 隆一 (病院医療情報部助教授)

中国 (蘇州) 10.12～10.16

佐々木 聖 (小児科学講師)

アルゼンチン (ブエノスアイレス) 10.12～11. 1

瀬川 直樹 (泌尿器科学助手)

韓国 (ソウル) 10.14～10.16

長澤 史朗 (脳神経外科学助教授)

アメリカ (ボストン) 10.30～11. 6

林 秀行 (医化学助教授)

矢野 貴人 (〃 講師)

生城 浩子 (〃 助手)

中井 由美 (〃)

アメリカ (サンタフェ) 10.30～11. 7

鏡山 博行 (医化学教授)

アメリカ (サンタフェ) 10.30～11. 7

水口 博之 (医化学助手)

アメリカ (サンタフェ) 10.30～11.10

大阪医科大学附属病院新総合棟建築事業に係る 学債募集について（お願い）

〈学債募集趣意書〉

大阪医科大学は昭和2年4月開校以来70年余の歳月を積み重ねてまいりました。その間の歩みは決して平坦なものではなく、先の大戦、大学紛争等幾多の試練もありましたがその都度、教職員、同窓、学生保護者等関係各方面の暖かいご支援をえて、無事乗りこえてまいりました。

お陰様で約7500名におよぶ本学卒業生の活躍は社会から非常に高い評価をうけるとともに、堅実でクリーンな学風が世間から好感をもって迎えられています。これも皆様方のご支援の賜と感謝しております。

さて、皆様御高承のとおり、今日の科学技術の発展はめざましく、医療技術も幅広い学問分野の発達を基盤として急速に進歩しております。本学がこのような流れに対応した医学教育、研究及び診療を行い、長寿社会、少子化社会の多様化した医療需要に的確に対処するためには、診療施設設備の改善、学生・教員の研究環境の充実、教職員の労働条件の向上等多くの課題をすみやかに克服する必要があります。

本学では、創立70周年を契機として、一層の飛躍をし、21世紀社会に貢献をすべく諸施策を検討しておりますが、その一環として、附属病院の近代化と、高度先進医療を積極的に進めるため附属病院新総合棟を建築することにいたしました。

この計画には多くの資金を必要としますが、本学をとりまく財政状況は、預金金利の低下、消費税の施行による消費税実質負担額の増加、薬価差益の減少、人件費、公共料金等諸経費の高騰等により非常にきびしくなっております。

もとより本学としまでも一致団結して、この計画を実現すべく努力しておりますが残念ながら現状は、関係各位のご支援を仰がざるを得ない状況にあります。

建築費用は約60億円ですが、そのうち10億円を皆様方からの学債でまかなう所存でおります。

経済状態が厳しい折り誠に恐縮でございますが、何卒以上の趣旨をご理解たまわりまして、学債募集にご高配を賜りますようお願い申し上げます。

〈募集要項〉

1. 名 称 学校法人大阪医科大学学校債
2. 借 入 期 間 5年または10年の2種類
3. 目 標 額 10億円
4. 募集対象者 本法人役員・評議員、教職員、仁泉会会員、学生保護者
5. 債券の金額 1口50万円
6. 利 息 5年もの：年0.1%（単利計算）
10年もの：年0.2%（ 〃 ）
7. 元利金償還方法 元金の払込日に応じた設定日から、5年または10年の満期日以降に、学債券と引き換えに元金及び利息を一括して返済します。

8. 設定日及び満期日

元金の払込日	設定日	5年ものの満期日	10年ものの満期日
平成11年7月15日から 平成11年10月14日まで	平成11年10月15日	平成16年10月15日	平成21年10月15日
平成11年10月15日から 平成12年2月14日まで	平成12年2月15日	平成17年2月15日	平成22年2月15日

9. その他の約定

- (1) 学債券の質入、その他担保に供したり、譲渡することはできません。
- (2) 中途解約は、やむを得ない特別の理由がある場合を除きできません。
- (3) 元利金返済時に寄附への切り替えの要請はいたしません。

〈学債の申込方法等について〉

1. 申込書の送付 申込書に必要事項をご記入捺印の上、下記期間内にお申込下さい。

- (1) 申込期間 平成11年7月15日から平成12年2月14日まで。
- (2) 送付先 〒569-8686 大阪府高槻市大学町2番7号
大阪医科大学事業推進室

2. 申込金の払込 振込用紙で下記によりお振込願います。

(誠に恐縮ですが送金手数料はご負担をお願いします。)

お振込期間	平成11年7月15日～平成12年2月14日
振込銀行	三井信託銀行 大阪支店
受取人名称	学校法人 大阪医科大学 学債口
口座番号	(普通預金) No. 7 6 2 8 3 2 7

3. 学債券の送付 申込書記載の住所宛、簡易書留便でお送り致しますが、事務処理の関係でお振込後約3週間後となりますのでご了承願います。

なお、振込金受取書は、預り証に替えさせていただきますので、学債券が届くまで大切に保管下さい。

〈学債申込状況〉

平成10年11月から10億円を目標額として開始いたしました附属病院新総合棟建築事業に係る学債募集の申込者は、9月30日現在473件、総額360,750,000円です。

ここに学債申込をいただきました方々のご芳名を掲載させていただき、感謝の意を表します。

(順不同・敬称略)

○本法人役員・評議員 30件、総額101,500,000円

佐々木進次郎	國澤隆雄	東郁郎	藤本守	平井博	佐藤博之	上田次郎
藤本正三	田中忠彌	美濃真	多田數義	植木實	島田真久	清金公裕
太田元治	家原利兼	藤高道也	下山誠	町塚道夫	勢川瑠美子	伊藤博
江原英彦	岡島邦雄	武内敦郎	西村忠史	平野勝	由谷三千夫	松村實
利倉暁一	中井益代					

○教職員

417件、総額203,500,000円

鏡山博行	谷川允彦	土井一宏	河野公一	古谷榮助	田嶋定夫	島原政司
竹中洋	牧本一男	玉井浩	米田博	千原精志郎	阿部宗昭	大槻勝紀
今井雄介	大澤仲昭	福田市藏	芝山雄老	河村慧四郎	窪田隆裕	勝健一
陰山克	森浩志	山崎隆司	太田富雄	佐野浩一	勝岡洋治	清水章
田中正寛	鈴木廣一	植林勇	森秀磨	宮崎瑞夫	林秀行	山本隆一
渡邊丈眞	伊東重徳	中島正之	近藤敬一郎	上田晃一	古川哲夫	後山尚久
坪倉省吾	田中英高	黒田健治	安田荅子	西村保一郎	木下光雄	瀬本善啓
東克	高松順太	石原正	岡田仁克	北浦泰	弘田雄三	吉田龍太郎
金山萬里子	長澤史朗	森松伸一	草壁秀成	中川俊正	和田明	清水雅史
末吉公三	島田恭光	森田眞照	竹田幹	中川アユミ	渡辺美鈴	土手友太郎
立花秀一	寺井陽彦	奥田喜代司	猪木千春	亀谷英輝	佐々木聖	岡村武彦
松村人志	土居宗算	伊藤裕子	宮本学	北岡治子	杉野正一	江頭由太郎
出口寛文	田中孝生	林哲也	前田環	福西恵一	中川一成	森本純司
黒岩敏彦	後藤俊幸	酒谷省子	畑中道代	中西豊文	時松敬明	上杉康夫
雑賀良典	山口淳	水野剛夫	原均	仁木正巳	豊田昌夫	野村栄治
白田寛	清水一弘	高淵雅廣	澤村律子	橋口範弘	仙田順子	紺田敏之
鶴長建充	池田篤	清木康雄	東山俊祐	金村昌徳	折野一郎	東川雅彦
伊藤尚	林伊吹	植木健	高谷竜三	稲田泰之	江村成就	康純
堺潤	木村澄子	玉山卓巳	相馬義郎	坂根貞樹	古玉大介	成山硬
竹下篤	浮村聡	寺崎文生	酒井泰彦	岡部真	平野博詞	植野茂樹
岩尾憲明	宮崎時子	西尾元	田村明敬	辻洋子	辰巳智章	田中康敬
辰吉光	岡悠子	松尾雄二	村尾浩	城戸滝枝	橋本豊子	井原美保子
灘久代	三輪田隆子	守本俊子	小牟田美幸	明田朋子	森山幸子	中山サツキ
谷口真理子	黒岩真紀	金森ひろ子	出坂秀雄	桐山賢良	稲葉護	小篠明
松崎美津代	田村悦雄	西川昭	福島猛	小林詩子	小島正	井上妙子
丹羽俊夫	岩本暢泰	井関隆	絹見紀一	前中美佳	松本玲子	斉藤千鶴子
村井幸子	藤田幸子	笠松和美	宮本りか	荒川治代	平野清美	橋本千和子
金森操	倉田葆江	吉田千鶴子	吉間正男	岩橋朗	西田伸忠	荒岡啓子
蔵本勝彦	友永孝則	大槻哲彦	楠善行	小野裕	小林悦子	門田雅人
成松正治	藤永孝	尾上千鶴子	段野利衛	中尾基克	田村美由紀	茂幾周治
乾瑠美	福広利明	橋口直栄	志磨美緒	谷口明美	権藤眞治	高井次雄
山本ズ子	前田静恵	山中正道	杉田涼子	平井実	小見義信	植田正実
高屋義光	尾崎長之	堤克彦	尻江達雄	井上博善	石川俊明	楠元肇
中村節也	中村桂子	内藤継也	永井利昭	上野照生	吉川満三	森本真佐子
川浪廣子	山田登茂子	樋口哲志	森篤史	岡田弘司	荻野安忍	香川満夫
村上澄子	前川幸男	金田恵孝	上田一仁	佐竹まさ子	竹谷清司	筒井裕一
長谷川美登里	森川政夫	竹内淑恵	儀賀久良	伊東百合子	松井清	竹内正保
松井盛次	袖岡秀幸	杉信義人	岡山勝良	漢邦憲聖	藤田明	植西信之
虎谷一仁	井ノ崎光彦	手塚好博	緒方貴広	濱田松治	河内明	竹村喜一郎
傍島悦子	上田倫子	秋田菊代	木山治	足立憲彦	安藤陽子	西橋正芳

竹原 富夫	鈴木 薫	福岡 栄介	中尾伊都子	桑村 賀子	中井 裕士	北川 俊史
若林 啓子	大野 博司	八幡 元清	飴谷 昭治	中濱 利枝	小林千恵子	神谷美佐子
西山 裕子	江口 博美	牟礼 洋子	服部 誠子	畑 恵津子	野村るり子	小谷 英子
松本 京子	坪内 操	崎山 三代	大坪喜久代	小野恵美子	北川 豊美	富成よし子
安原久仁子	内倉 清子	久永美智子	福 末子	今井 真弓	津原 貞子	四方 早子
寶田 照代	間曾 啓子	高木 裕美	近藤 富子	濱本由美子	内田 和栄	西村 尚子
麻田 規子	刈谷 智子	福永 知子	福富 美樹	檜木 淑恵	小又真有美	寺岡由佳里
浅井 明美	佐藤真由美	上田 千鶴	小倉真奈美	高橋 知子	玉井 千晶	谷口 佳美
中山奈緒美	佐藤 美幸	志船 美香	田池 泰子	石垣 由美	前田百合子	有馬 貴子
吉岡 奈美	福山 京子	内海美千代	二宮 豊恵	阿部 宏子	寺山 紀子	中西ツギ子
辻 節子	豊田 瑞恵	林 真紀	三木 明子	森山寿迦子	岩 ちづる	小倉 栄子
東 典子	泰 八重子	岡崎 和子	水橋 豊子	菊岡めぐみ	堀 節子	千崎 辰子
山下 京子	浅野 澄子	横堀 婦美子	廣松 安子	高井千登美	高橋 典子	由藤久美子
山川 由加	川西いづみ	山川 明美	福田 政恵	新居扶美枝	菱田矢須子	笠松 好子
半仁田マツコ	糸島 陽子	吉田さとみ	村井 教子	吉川 由香	大塚いずみ	辻尾 敦宏
紙谷 信子	中島由美子	長谷川小夜子	河合美和子	楞田 尚子	横山 幸子	竹田 美和
山田富美子	菊池 千春	藤原 寛子	川上 民代	原 葉子	鈴江 和枝	大塚 映子
池添 香苗	平野しみず	村上 操	大植ひろ子	松本 松美	浜田 昌子	岡田喜久代
松岡 道弘	大谷 綾子	山田アイ子	東山 信子	辻内 民子	南部 豊子	川上 将弘
笹山 節子	林 健	田中 修	中村 高荘			

○仁泉会会員 22件、総額29,000,000円

立花 正史	入野 敏夫	星屋 重夫	堺 景子	原 均	西林 茂祐	樋口又次郎
峰 晴昭夫	武田 次男	富永 通裕	松本 延男	日野多喜子	金子 仁	村木 宏要
高城 丈夫	SU CHIN AN	鄭 源紀	比留間國男	横田 和男	井上 広治	松本 秀雄
伊東 巖						

○その他 4件、総額26,750,000円

大阪医科大学仁泉会支部 大阪医科大学医師会 大阪医科大学教員組合 仁泉会本部

大阪医科大学附属病院新総合棟建築事業に係る 寄附金募集について（お願い）

〈寄附金募集趣意書〉

大阪医科大学は昭和2年4月開校以来70年余の歳月を積み重ねてまいりました。その間の歩みは決して平坦なものではなく、先の大戦、大学紛争等幾多の試練もありましたがその都度、教職員、同窓、学生保護者等関係各方面の暖かいご支援をえて、無事乗り越えてまいりました。

お陰様で約7500名におよぶ本学卒業生の足跡は社会から非常に高い評価をうけるとともに、堅実でクリーンな学風が世間から好感をもって迎えられております。これも皆様方のご支援の賜と感謝しております。

さて、皆様御承知のとおり、今日の科学技術の発展はめざましく、医療技術も幅広い学問分野の発達を基盤として急速に進歩しております。本学がこのような流れに対応した医学教育、研究及び診療を行い、長寿社会、少子化社会の多様化した医療需要に的確に対処するためには、診療施設設備の改善、学生・教員の研究環境の充実、教職員の労働条件の向上等多くの課題をすみやかに克服する必要があります。

本学では、創立70周年を契機として、一層の飛躍をし、21世紀社会に貢献をすべく諸施策を検討しておりますが、その一環として、附属病院の近代化と、高度先進医療を積極的に進めるため附属病院新総合棟を建築することにいたしました。

この計画には多くの資金を必要としますが、本学をとりまく財政状況は、預金金利の低下、消費税の施行による消費税実質負担額の増加、薬価差益の減少、人件費、公共料金等諸経費の高騰等により非常にきびしくなっております。

もとより本学としましても一致団結して、この計画を実現すべく努力しておりますが残念ながら現状は、関係各位のご支援を仰がざるを得ない状況にあります。

建築費用は約60億円ですが、そのうち10億円を皆様方からのご寄附金でまかなう所存であります。

経済状態が厳しい折り誠に恐縮でございますが、何卒以上の趣旨をご理解たまわりまして、寄附金募集にご高配を賜りますようお願い申し上げます。

〈募集要項〉

1. 目 標 額 10億円
2. 募 集 期 間 平成11年7月から平成13年12月
※税法上の優遇措置が受けられます。
3. 募 集 対 象 本法人役員・評議員、教職員、仁泉会会員、白友会会員、学生保護者、一般個人及び法人
4. 問い合わせ先 大阪医科大学事業推進室
TEL0726-83-1221（内線2611）

〈寄附金の申込方法について〉

- (1) 寄附申込書に必要事項を記入、捺印の上、上記期間内にお申込下さい。
- (2) ご寄附金の納入については、振込用紙により下記口座にお振込をお願いします。

振込は、一括振込、分割振込いずれでも結構です。

・受取人 学校法人 大阪医科大学寄附金口

・振込口座

指 定 銀 行 名	種 類	口 座 番 号
三井信託銀行大阪支店	普 通	7 6 3 1 1 3 1
住友銀行高槻支店	普 通	2 1 6 1 0 7 8
東京三菱銀行高槻支店	普 通	0 0 7 0 2 4 6
さくら銀行高槻支店	普 通	6 5 5 6 8 7 4

〈寄附金申込状況〉

平成11年7月から10億円を目標額として開始いたしました附属病院新総合棟建築事業に係る寄附金

募集の申込者は、9月30日現在110件、総額29,529,481円です。

ここにご寄附をいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

(順不同・敬称略)

○本法人役員・評議員 3件、総額1,800,000円

谷村和治 原 亮多 吉田康久

○教職員 2件、総額15,000円

宮武 明 門田雅人 大槻哲彦

○仁泉会会員 50件、総額9,860,000円

松浦秀吉	山縣康成	星屋重夫	深澤高士	宇津一彦	忌部 卓	田村 貢
入野敏夫	伊藤龍三	橋平成章	田中義松	岩瀬知行	斉藤直興	重清政章
笠松 茂	鈴江襄治	中川政幸	岩井恵美	鷹津冬文	米原一成	鄭 源紀
山本直喜	山下貴司	南 俊一	松田源吾	萩崎秀男	澤田 勁	小川正尚
日野徹夫	木野昌也	松本延男	原 公德	岸 勘治	喜田 衛	鈴木博一
小嶋昭子	三根大乘	林 剛吉	真田 博	井利 鼎	神部純二	米田一皓
小松真悦	鈴木一雄	重森 平	河合尚樹	南 昇	萱澤正平	忠 岡紀
村岡 斌						

○白友会会員 39件、総額2,073,000円

吉田澄子	山下明日香	田中千登勢	三田朝子	秋岡アサ子	三好トラキ	小野恵美子
福永知子	小倉真奈美	阪本静香	樋田美智子	笹井文子	井上尚子	斉藤理子
片岡裕美	石井和江	吉川ひろみ	小川 恵	小中恵理	生嶋綾子	高尾涼子
和田節子	上西久子	松本 富	六澤 欣	澤井利子	高田キリエ	清家チズ子
手嶋敏子	須藤 葵	山本かほる	山本定子	青木松子	百々道子	小野武子
松田のり子	藤本かつ子	三浦町子				

○法人等(個人、一般を含む) 16件、総額15,781,481円

寄付者	代表者
株式会社コーリン	代表取締役 原田昌満
日研化学株式会社大阪支店	支店長 岡部正暎
医療法人佐々木外科内科	理事長 佐々木真人
浅海電気株式会社大阪本店	本店長 俵照男
株式会社ニチネン	代表取締役社長 服部達哉
ワタキューセイモア株式会社	取締役支店長 鈴木臣道
株式会社ニューメディアランドマツバラ	代表取締役 松原博之
フクダ電子株式会社	取締役社長 福田孝太郎
都市クリエイト株式会社	代表取締役 前田晋二
クラヤ薬品株式会社	代表取締役 熊倉貞武
株式会社ゲッツブラザーズ	代表取締役 ポール・ボンド
富士メディカルシステム株式会社関西支店	支店長 塚本洋一
医療法人山口医院	山口誠
大阪医科大学新旧学長歓送迎会事務局	代表 渡邊正仁
東邦薬品株式会社大阪営業部	部長 工藤幸雄
医療法人社団 昭景会	理事長 保坂景子

平成11年度（第Ⅰ回）学位記授与

平成11年度第Ⅰ回学位審査には、論文提出による者の申請があり、所定の審査が行なわれました。
その結果、7月21日付をもって6名が合格し、7月22日（木）午後2時から第2会議室において学位記授与式が行われました。

番 号	氏 名	論 文 題 名
乙第836号	伊井 正明	Beraprost reduces intimal hyperplasia following injury in the canine coronary model (ベラプロストはイヌ冠動脈モデルにおいて傷害後の新生内膜形成を抑制する)
乙第837号	小山 郁夫	Hepatitis C virus, rheumatoid factor, complement cold activation and cirrhosis progression, in alcoholic patients (アルコール依存症患者におけるHCV抗体、リウマチ因子及び血清補体価についての検討)
乙第838号	宮城 和文	Establishment of rapid examination of cholera toxin gene 1) Cholera diagnosed in clinical laboratory by DNA hybridization 2) Successful application of enzyme—labeled oligonucleotide probe for rapid and accurate cholera diagnosis in a clinical laboratory 3) An improved method for detecting <i>Vibrio cholerae</i> by PCR of the toxin A gene (コレラ毒素遺伝子の迅速検査法の確立 1) DNAハイブリダイゼーションによる臨床検査室でのコレラ診断 2) 臨床検査室における迅速、正確なコレラ診断のための酵素標識オリゴヌクレオチドプローブの応用 3) コレラ毒素Aサブユニット遺伝子のPCR増幅法による糞便中コレラ菌同定法の改良)
乙第839号	中村久仁子	The relationship between apoptosis and keratinization in human epidermis (表皮における角化とアポトーシスについて)
乙第840号	炭 美子	某電子工業上部消化管管理検診の経済評価 —特に消化性潰瘍経過観察における費用便益分析—
乙第841号	山野由里子	Differences between changes in serum thyrotropin—binding inhibitory antibodies and thyroid—stimulating antibodies in the course of antithyroid drug therapy for Graves' disease (Graves病に対する抗甲状腺剤治療経過中の血中TSH結合阻害抗体と甲状腺刺激抗体の変化の相違)

——平成12年度入学試験要項（概要）——

平成12年度大学医学部・大学院医学研究科・看護専門学校、それぞれの入学試験要項が決定いたしましたのでその概要をお知らせします。

I) 医学部・医学科

1) 入学願書受付期間

平成12年1月5日（水）～1月31日（月）必着のこと

2) 学科試験日および試験科目

月 日 (曜)	時 間	教 科	科 目 (出 題 範 囲)
2月10日 (木)	9:30～11:10 (100分)	数 学	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B・数C 数Aの科目中、平面幾何・計算とコンピュータを除く 数Bの科目中、算法とコンピュータを除く 数Cの科目中、数値計算・統計処理を除く
	12:30～14:30 (120分)	理 科	「物B・物Ⅱ」・「化B・化Ⅱ」・「生B・生Ⅱ」 の3区分中2区分選択
	15:30～16:40 (70分)	外国語	英Ⅱ・リーディング・ライティング

3) 試験場

関西大学・千里山キャンパス第3学舎（社会学部）（大阪府吹田市千里山）

4) 学科試験合格者発表

2月18日（金）午後4時、本学構内に掲示するとともに、出願者全員に対して、電子郵便で「学科試験合格者受験番号一覧表」を送付する。

5) 面接試験・小論文及び健康診断

2月22日（火）午前8時20分（学科試験合格者について実施する）

6) 合格者発表

2月23日（水）午後5時、合格者を本学構内に掲示し、本人宛（保護者現住所）にも合格通知書並びに入学に関する手続書類を送付する。

7) 入学検定料 50,000円

8) 納入金

項 目 \ 納 期	初 年 度 納 入 金			2 年 次 以 降 納 入 金 (年 額)
	第 1 期 (入学手続時)	第 2 期 (9月15日)	第 3 期 (1月15日)	
入 学 金	1,000,000円			
授 業 料	600,000円	600,000円	600,000円	1,800,000円
実 習 料	120,000円	120,000円	100,000円	340,000円
施 設 拡 充 費	400,000円	400,000円	400,000円	1,200,000円
教 育 充 実 費	5,000,000円			900,000円
合 計	7,120,000円	1,120,000円	1,100,000円	4,240,000円

★入学手続完了者で3月21日（火）正午までに本学所定の書面により入学辞退を申し出た場合、
入学金以外の納入金を返還する。

（註）

- 1）入学手続時に、PA会（保護者会）会費（年額100,000円）のうち第1期分50,000円及び学友会入会金5,000円、学友会会費（年会費）10,000円をそれぞれ委託徴収する。

Ⅱ）大学院・医学研究科

1）入学願書受付期間

平成12年1月4日（火）～1月18日（火）（必着）

2）入学試験日時、試験科目及び試験場

月日（曜）	時 間	試 験 科 目	試験場
2月3日(木)	9:30～11:30	外 国 語	本 学
	12:30～13:30	健康診断	
	13:30～16:00	面 接	
2月4日(金)	14:00～16:30	専攻科目	

3）合格発表

平成12年3月9日（木）午前9時本学内に掲示すると共に本人宛にも通知する。

4）入学検定料 30,000円

5）納付金

項 目 \ 納 期	初 年 度 納 付 金			2 年 次 以 降 納 入 金（年 額）
	第1期(入学手続時)	第2期	第3期	
入 学 金	230,000円			
授 業 料	200,000円	200,000円	200,000円	600,000円
実 習 料	70,000円	70,000円	60,000円	200,000円
合 計	500,000円	270,000円	260,000円	800,000円

Ⅲ) 看護専門学校

一般入学試験

学 科	第一看護学科（三年課程）		第二看護学科（二年課程 全日制）	
募集人員	約 25 名		約 30 名	
受験資格	1）高等学校卒業のもの、又はそれと同等の資格を有する者 2）本年度中に上記の資格取得見込みの者		1）高等学校衛生看護科卒業及び卒業見込者 2）高等学校または中等教育学校を卒業し、准看護婦の資格を有する者 3）准看護婦の免許を取得してから3年以上看護業務に従事している者	
	1 次 試 験	2 次 試 験	1 次 試 験	2 次 試 験
試験日時	平成12年1月30日(日) 9：00～15：30	平成12年2月1日(火) 8：00～	平成12年1月24日(月) 9：00～12：30	平成12年1月25日(火) 8：30～
試験科目	筆記試験 国語Ⅰ（漢文を除く） 数学Ⅰ（二次関数・図形と数量） 数学A（数と式） 生物ⅠB・化学ⅠBのうちいずれか1科目選択 英語Ⅱ 適性検査	身体検査 面接	筆記試験 一般試験 数学Ⅰ（二次関数・図形と数量） 数学A（数と式） 英語Ⅰ 国語Ⅰ（漢文を除く） 専門科目（准看護婦課程において履修した科目） 適性検査	身体検査 面接
試 験 場	高槻YMCA学院 高槻市八丁西町5番37号	大阪医科大学 高槻市大学町2番7号	高槻YMCA学院 高槻市八丁西町5番37号	大阪医科大学 高槻市大学町2番7号
合格発表	平成12年1月31日(月) 12：00	平成12年2月5日(土) 12：00 合否については本人宛に郵送で通知する	平成12年1月25日(火) 8：00	平成12年1月29日(土) 12：00 最終合否については本人宛に郵送で通知する
	いずれも大阪医科大学正門の掲示板に発表する			
受 験 料	20,000円			
受付期間	平成12年1月5日(水)～1月21日(金)消印有効 ※ 願書持参は平日9：00～16：30 (土曜、日曜、祝日を除く)		平成11年12月20日(月)～1月14日(金)消印有効 ※ 願書持参は平日9：00～16：30 (土曜、日曜、祝日を除く)	
学 費	入 学 金 150,000円 授 業 料 350,000円（年間） 実験実習料 50,000円（年間）			

推薦入学試験（指定高校制）

学 科	第一看護学科（三年課程）	第二看護学科（二年課程）
募 集 人 員	約15名	約10名
受 験 資 格	平成12年 3 月高等学校卒業見込者	平成12年 3 月高等学校（衛生看護科） 卒業見込者
推 薦 基 準	推薦者は 1 学校 1 名 1）成績がA段階またはB段階であること。 2）心身共健康で将来看護婦となるに適している者であること。 3）専願で合格後は必ず入学すること。 4）学校長の推薦があること。 5）原則として卒業後本学附属病院に就職すること。	
試 験 日 時	平成11年11月11日（木）9：00～	
試 験 科 目	筆記試験 国語Ⅰ（漢文を除く）・小論文試験 面接試験 適性試験 身体検査	
試 験 場	大阪医科大学 高槻市大学町 2 番 7 号	
合 格 発 表	平成11年11月25日（木） 可否については学校に通知するとともに本人に通知する。	
受 験 料	20,000円	
受 付 期 間	平成11年11月 1 日（月）～11月 5 日（金）消印有効 ※ 願書持参は平日 9：00～16：30 （土曜、日曜、祝日を除く）	
学 費	入 学 金 150,000円 授 業 料 350,000円（年間） 実験実習料 50,000円（年間）	

教 室 紹 介

薬理学教室

薬理学教室は、新研究棟の4階東寄り、病態検査学と医化学に挟まれて位置します。教室の入口には、旧本館の時代に使われていた教室机が掛かっています。おそらく、これは本講座開設以来の歴史的遺産です。旧本館が取り壊される直前に、2階西の研究室のドアの上にあったものをはずしてきましたが、この類のものは本学唯一ではないかと思います。

宮崎の赴任（昭和62年4月16日）以来、満12年が過ぎました。この間に、人と研究内容ともにすっかり変わってしまいました。現在の人員は、教授以下、講師2人（塩田、高井）、助手2人（金、山田）、事務員（芦田）の常勤に加えて、院1年生（阪口）、研究生（高尾・参天製薬）、その他、胸部外科、皮膚科、泌尿器科の教員・院生、また、最近高槻市へ移転してきた大阪薬科大学の衛生化学、生物細胞学、生薬学各教室の教員・学生が数名、入れ替わり研究室に出入りしている状況です。

教育面では、今年から新カリキュラムに移行したところで、正直適応に苦戦しているところです。単講座であるのは目下致し方ないことですが、教育スタッフが絶対的に少なく、広領域をカバーし難いのです。戸田 昇先生（滋賀医大名誉教授）、奥西秀樹先生（島根医大教授・本学S49卒）、田中豊夫先生（本学前講師）、石井権二講師（本学前学内講師）、森本純司講師（本学実験動物センター）、山本大助講師（本学医学情報処理センター）の御協力を仰いでいます。さらに、本学薬剤部には吉成部長時代より、講義、実習共に大変な協力を頂いております。現在、福岡、鈴木、井尻の各位に手伝ってもらっている次第です。御承知のように、本学の薬剤部は病院に附属しており、制度的には教育と

は無関係なところに位置づけられています。大学の薬剤部でありながら、きわめて異質な形態ではありますが、実質的には皆さん大学のスタッフ以上にアカデミックであり、早く名実共に、薬剤部、少なくとも一部にアカデミックな部門を設けていただくことが、本学が大学と名乗る以上、不可欠なことだと痛感しています。筆が過ぎるかもしれませんが、現在の本学の薬剤部の位置づけでは、目下、院外処方だけに右往左往しており、大学としてのこれからの薬剤部としての方向性が全くなされていないように思えます。寂しいかぎりです。

薬理学実習では、大型動物を使った実習を中心に、できるだけ動物を多用するようにあえて努めています。これは、薬の評価というのは限りなくヒトに近い動物でなければ意味がないという教室の信念、故です。今日の時世で、学生がイヌを用いて実習できるというのは、世界的に見ても数少ないことでしょう。これも、実験動物センターの並々ならぬ御協力のおかげです。カリキュラムの変更に対応するのは、動物の手配の面からも実は大変なのです。ですから、「どうか、このイヌ達を犬死させないで下さい。」というのが私の学生へのメッセージなのです。

研究の面では、10年かけてやっと軌道に乗ってきたのではと言えるようになってきました。以前、学内誌のどこかに「エンジンを全開にしているが、なかなか機体は浮上せず、滑走路を迷走している」というようなことを書きました。今は、心循環疾患における血管薬理学という分野を確立して、これに向かって順調に高度を維持して飛んでいます。特に、血管床で機能して病態を引き起こすアンジオテンシンⅡに焦点を当てて、その産生機構が関与する病態の発見とアンジオテンシンの作用抑制による治療の面からの薬剤の開発、薬理学的解析に取り組んで



います。目下、前助教授の奥西先生共々始めたアンジオテンシンⅡを産生する酵素であるキマーゼとその阻害薬、ACE阻害薬、アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬の治療の薬理学的研究では、他をリードできる仕事が出ていると自負しています。過去3年でこの関連で18報の論文が国際誌に載りました。今年も既にCirculationやBritish Journal of Pharmacology誌など、一応インパクトファクターが高いと有り難がられる雑誌に掲載されています。教室員一同、大阪医大の名前を世界に売ることを使命と心得て頑張っている次第です。教室員はもとより、臨床の教室からの若い面々がすばらしい実力を発揮してくれています。頼もしい限りです。ただ、残念なことに、まだ本学の卒業生で薬理に籍を置こうという人がいないのが実情です。

高槻の名物といえば「田辺屋の冬籠」ですが、それしか無いからというのは少々辛くて、遠くからでもそのためにわざわざ買いにきてくれる名物でないといけません。大阪医大といえばあの教室とよその大学からも認めてもらえるような、全国に通用する高槻の名産に薬理学教室を

してみせたいのです。

特に本学の薬理学では基礎医学というよりも、医学における応用科学という面を打ち出すよう心掛けています。従って、まず病態モデルがあって、その解析に、従来の薬理学的手法に加え、蛋白化学、遺伝子工学、組織学、コンピューター解析等の手段をフルに応用するというシステムを確立してきました。その上で、あくまでもオリジナリティのある仕事にこだわっています。今後も、その路線で行くつもりです。

ところで、飼い主は飼っているイヌに似てくるのですが、教室のスタッフが、最近、

実験に多用しているハムスターに似て、胴が太く手足が短くなってきました。本当かどうか一度見に来て下さい。

(文責 宮崎瑞夫)

医学教育と行動主義心理学

心理学教授 千原精志郎

本学の教育改革では何回も教育ワークショップを行い、相当数の教員が新たな教育の概念を学んだ。行動目標は「理解する」「修得する」などの用語を排し、それを表面に現れる行動として「・・・を説明できる」「・・・を列挙できる」などの表現を用い、抽象的表現を避けて具体的にしている。また教育とは「学生の行動をかえる」ことであると定義している。シンプルな方法であるが、なるほどと思えるところが多かった。しかし、いくらかの問題もあるようなので、ここではそれを考えてみたい。

こういった教育は行動主義心理学に基づいている。かつて理念的、抽象的であるとして科学の名を与えるに値しないというもののさえいた心理学に、客観的な評価方法を導入し、自然科学的研究を可能としたのがワトソンの行動主義心理学である。ここでは主観に左右されやすい精神の評価をやめ、精神を反映した行動を客観的に評価している。確かに行動は客観的に評価できるが、どのように精神を反映しているかについては疑問が残る。

例えとして性格と人格という概念があり、これらはほぼ同義に用いられている。性格は内面的傾向を、人格は表面に現れた行動を表している。通常性格も人格もほぼ等しいが、それが相違する場合もある。具体的には、元来小心な性格者がそれを克服しようと剛毅な態度を取るうちに、剛毅な人格となる。しかし、大きなストレスにさらされると、周囲が思いもしなかった小心さがでてくる。ここには反動形成、退行といった適応の心理機制が働いている。つまり性格が加工されて性格とは反対の人格が形成され

るものの、ストレス下で退行を起こし本来の性格が現れてくる。

臨床の間ではストレスを持つ患者さんが対象となり、行動を重視する立場からは内面の苦悩が読みとれないことがある。また行動主義的教育で行動が変化した医学生、医師が、患者の危機に臨んでストレスにさらされ、退行を起こす場合もある。行動はかえたが「そんなこと思へんで」という学生がいるかも分からない。自然科学の及ぶ範囲では、「そんなこと思へんで」でも行動がかわりさえすればよいが、医師—患者関係などについては表面的な行動変化のみでよいとはいえない。

思えば行動評価は動物心理学の方法でもある。動物の精神は評価し難いし、人間と比較する精神があるか否かについても問題は残る。だが行動は評価できる。行動主義偏重の心理学は、どうも人間を動物と同列に扱っているような気がする。もちろん客観的に評価できることは大きなメリットだが、主観的になりがちな患者さんの多様な悩みを扱う医療の間では、人文科学的素養が必要である。一見冗長、迂遠とも見える人文科学の教育は、自然科学とは方法論的に異なった立場から、評価、検討されなければならない。

短期海外留学記

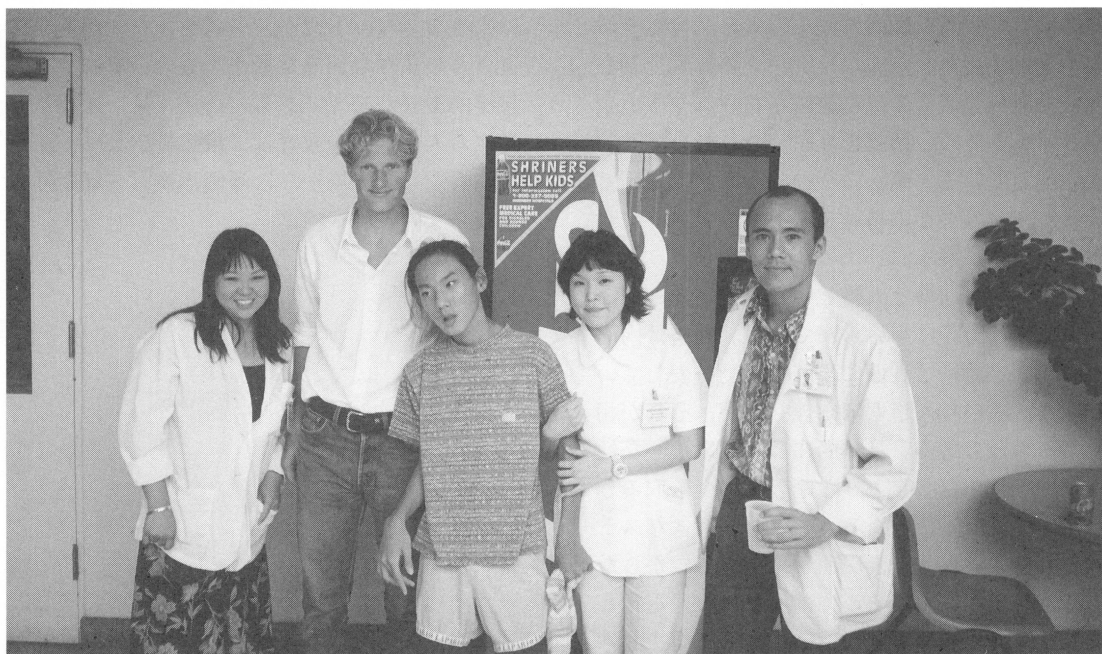
[Shriners hospitalでのElective clerkshipに参加して]

第五学年 笹田寛子

本年7月、1ヶ月間ハワイのホノルル市にあるShriners hospital for childrenで研修を受ける機会があった。Shriners hospitalは全米に20以上の拠点をもつ小児整形外科を主とする無償の病院であり、地元の子供達だけでなく環太平洋の数多くの国から先天障害を持つ子供達が治療のため病院を訪れていた。ハワイのShrinersはハワイ大学の研修先の一つでもあり医学生に対する研修プログラムもきちんと組まれていた。私自身は行くまでどんなことをするのか全く解らず、とても楽天的に考えていたので1ヶ月の予定表をもらい、その内容を読んだときにはかなりのショックを受けた。というのはRequirementsに全ての講義に出席すること、毎週1人の患者を診察し治療法を考えpresentationすること、小児整形外科のfinal examに合

格すること等々私にとってとてもハードな内容が書かれていたからである。特に日本でも患者さんを診察したことがなかったので、それに対する不安は大きかったが、すぐに「せっかくの機会だから出来るだけやってみよう」と思い、一日一日を楽しむ事にした。

私が参加した期間には、私以外にあと2人の学生がいた。一人はシカゴの大学から来ているPA (physician assistant) のKellie、もう一人はドイツの医学生Jensであった。私達3人は毎日外来でfollowする医師が違う他は同じ様なスケジュールが組まれていた。毎週の予定はほぼ同じで、月曜は入院患者さんの検討を中心としたカンファレンス、火曜は講義とレジデントによる担当患者の治療方針に関する検討会、水曜と木曜は手術で昼からは慢性リュウマチ外来、金曜



左から研修中一緒だったKellie、Jens、浅井力也君、私、Markと病院の食堂前で

は特殊外来であった。普通外来はもちろん毎日あった。

一つ一つが初めての経験で興味深かったが、私にとって一番印象に残ったのが特殊外来であった。特殊外来とは言ってみれば遺伝外来であり、ワイキキの各病院からshrinersに遺伝病と思われる患者さんが紹介されてきていた。それも家族で来ていて、多いときには三世代がそろっており、父型の遺伝でみんなが揃って蜘蛛状指をもっているなど今更ながらに優性遺伝とはこういうものなのかと感じたりした。診察も興味深く、遺伝学者、整形外科医、PTが患者さんと一つのチームとなって丁寧に診察を行っていた。病院長のDr. Reinkerは小児整形外科医であるとともに遺伝学にもかなり詳しく整形外科的な疾患の特徴から色々な症候群の可能性を遺伝学者と伴に話し合っていた。

さて私が一番心配していたpresentationであるが、結局毎週ではなく各学生に一人の患者さんが割り当てられただけであった。私はサイパン出身の5才の脳性麻痺の女の子担当で入院を繰り返していたことと、3つの手術を同時に行うということで読まねばならないカルテと文献が大量にあったが小児科でローテーションに来ていたハワイ大学4年のMarkやKellieの助けも借りてなんとか無事に終えることが出来た。そして何よりも患者さんの所に頻繁に話を聞きに行っていたので女の子ともその父親とも仲良くなれたのがうれしかった。「医者になったらサイパンに遊びに来てね。そのころにはこの子も歩いているから。」という父親の言葉が印象的であった。本当にそうであって欲しいと思う。

最後になったがこの研修にあたって大変お世話になった、ハワイに住む親友の浅井力也君ご家族と適切なアドバイスを下さった瀬本喜啓先生、出口寛文先生、前田環先生にこの場を借りて感謝したい。

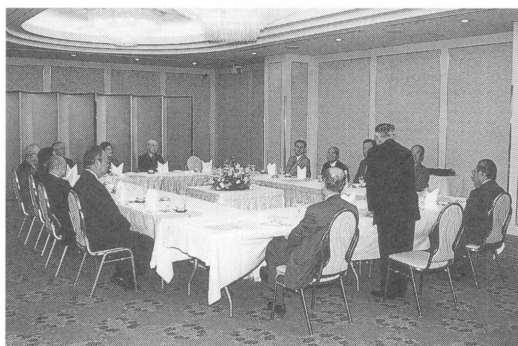
叙位・叙勲

正五位勲三等瑞宝章（平成11年7月21日）

名誉教授 故 越賀 一雄 殿

名誉・功労教授懇談会

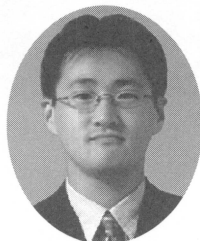
名誉・功労教授懇談会が、10月22日（金）午前11時30分から、いばらき京都ホテルで開催されました。今年は中田勝次名誉教授が幹事を務め、15名の名誉教授、功労教授が出席されました。



日本医用マススペクトル学会奨励賞

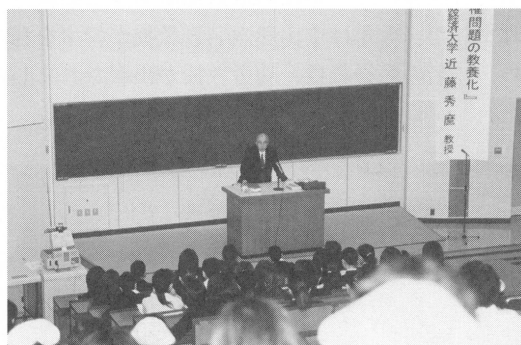
質量分析の医学応用の分野において優秀な業績をおさめた者に贈られる日本医用マススペクトル学会奨励賞の贈呈が、9月24日（金）同学会の第24回年会において行われ、病態検査学教室の岸川匡彦学内講師が受賞されました。

業績題目「神経変性疾患の原因となる蛋白質の質量分析による構造解析 ―診断法開発と病態解明をめざして―」



同和教育特別講演会

同和教育に関する特別講義が、10月13日（水）午後2時40分から、『人権問題の教養化』をテーマに近藤秀麿大阪経済大学教養部教授（同大学理事）を講師にお招きし、臨床第1講堂にて開催され、来聴者は熱心に耳を傾けていました。



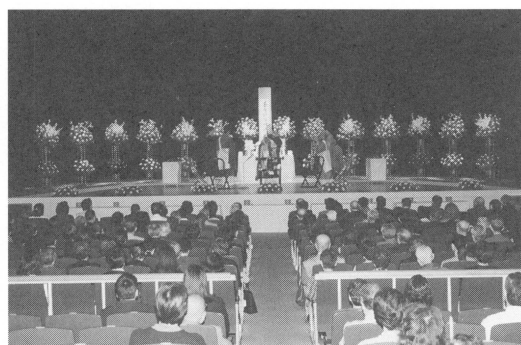
看護専門学校戴帽式

看護専門学校第一看護学科学生46名に対する戴帽式が10月12日（火）午後1時から本学臨床第1講堂において、来賓及び保護者の方々をお迎えし挙行されました。



平成11年度解剖慰霊祭

平成11年度の解剖慰霊祭が、10月16日（土）午後2時から高槻現代劇場において、ご遺族、さつき会会員（生前献体登録者）及び来賓各位約300名をお迎えし、本学役員、教職員並びに学生、看護専門学校生の参列のもと、おごそかに執り行われました。



本部・さわらぎキャンパス懇親会

今年で20回目を迎えた本部・さわらぎキャンパス懇親会が、7月23日（金）午後5時から第9会議室において行われ、島田学長をはじめ100名を超える教職員の出席のもと、盛況のうちに終了しました。



大学祭'99「Scrum」

今年は「Scrum」をテーマに10月10日（日）さわらぎキャンパスにおいて開催されました。

同キャンパスに設けられた野外特設ステージでは、10日午前10時からK-On Heat Beat Part Iが行われたのを皮切りに、梨花&メッセンジャー爆笑トークショーなど多彩なイベントが午後8時まで催されました。

また、キャンパス内でも各クラブが、イベントやクラブ出展を行い、日頃は閑静なキャンパスも、この日は賑わいを見せていました。



野立て



バザー

消防避難訓練

10月27日（水）午後2時から、高槻市中消防署と病院自衛消防隊の合同で夜間・休日体制における消防避難訓練が行われました。

当日は附属病院64病棟給湯室から出火したことを想定して、仮想患者による避難訓練が行われました。参加者は、火災発生時や緊急時における患者さんの生命と安全を守るために真剣な面持ちで訓練に取り組んでいました。

また、避難訓練に先立って10月19日（火）午後1時30分から、中央資料館前において消火実地訓練が行われました。当日は、消火器の使用訓練と、起震車による地震体験乗車も行われました。参加者は初期消火の重要性を身をもって学ぶとともに、地震など各種災害対策への認識を新たにしていました。



消防避難訓練



消火実地訓練

第51回 西医体

弓道部（男子）、卓球部（男子）、 空手道部が優勝

第51回西日本医科学生総合体育大会は和歌山県立医科大学を総合主幹校として西日本の44大学が参加して近畿各地を会場に7月25日～8月9日の日程で20種目の競技が行われました。

本学の主な成績は次の通りです。

総合成績 第7位（総合得点259.5点）

上位成績 優勝 弓道部（男子）

卓球部（男子）

空手道部

準優勝 卓球部（女子）

ラグビー部

なお弓道部は、後日行われた全日本医科学生総合体育大会において準優勝と健闘しました。

本学の伝統である“文武両道”をモットーに、多くの学生達がクラブに所属し、勉学の傍ら、西医体での優勝を目指し、学生生活を充実させております。また今回は地元での開催であったためか、例年に比べどこのクラブも盛り上がっております。

その甲斐あって、今回の西医体では多くのクラブが好成績を収め、総合成績でも去年を上回る7位を獲得する事が出来ました。しかし、5年生以下の学生はこの結果に甘んじることなく、さらなる向上を目指し、ますます練習に励んでおります。来年は、入賞以上の結果が得られるものと確信しておりますので、どうか先輩諸氏、教職員の皆様方には、温かい御支援御指導を宜しくお願い致します。

また今年度をもってクラブ活動を引退される6年生の皆様、本当にお疲れ様でした。そしてありがとうございました。我々の最も身近な先輩として今後もどうか宜しく願いいたします。

す。

平成11年度 体育会委員長

天 野 大

弓道部

我々弓道部は、第51回西医体弓道部門におきまして男子団体戦優勝、男子個人戦優勝、全医体団体準優勝という結果を収めることができました。西医体男子団体戦優勝は戦後弓道部初となります。これも大学関係者の皆様の日頃からのご支援の賜物でございます。この結果に満足せず今後もよい結果を出せるよう努力してまいります。また本年度西医体弓道部門の主管にあたり多大なるご支援ご協力を頂きました事、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

来年度の関西医歯薬大会、全医体弓道部門におきましても主管を執り行うことが決定しております。何かとご迷惑をおかけすると思いますが、御指導、御鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



弓道部一同

卓球部

昨年は、男女共準優勝でしたが、今年は男子は優勝することができました。又、女子も昨年に続き準優勝という好成績を残すことができました。来年も、男女共好成績が残せるよう頑張っていきたいと思います。最後に色々な面でバックアップして下さったOBの先生方に感謝し

ます。



卓球部一同

空手道部

13年ぶりに念願の西医体団体戦優勝を果たすことができました。その他個人戦を始め、同時に開催しました看護学生による空手道大会に至るまで数々の好成績を残すことができました。また、競技主管校としても大会を成功させることができて嬉しく思います。



空手道部一同

主要会議とその主な議題

7月16日から10月31日までの主要な会議とその主な議題は次のとおりです。

[理事会]

(8月3日)

—審議事項—

1. 大阪医科大学附属看護専門学校長選考規程の制定について

(9月4日)

—審議事項—

1. 大阪医科大学附属看護専門学校長選考規程の制定について（継続審議）

(9月28日)

—審議事項—

1. 学校法人大阪医科大学経営専門委員会の設置について

—報告事項—

1. 理事会運営内規について
2. 有料老人ホーム入居者に対しての診療協力について
3. 単科私立医科大学の財政状況について
4. 日本私立医科大学協会理事会報告について
5. 新総合棟（7号館）建築計画中間報告について

(10月12日)

—審議事項—

1. 大阪医科大学先端医療の構築について
2. 平成12年度入学者に対する寄附金募集について

—報告事項—

1. 院外処方の実施状況について

(10月26日)

—審議事項—

1. 平成12年度入学者に対する寄附金募集について

—報告事項—

1. 治療センターの設置について

[教授会]

(7月21日)

1. 人事に関する件 (講師の任用他)
2. 平成11年度日本育英会奨学生 (きぼう21プラン) の追加推薦に関する件
3. 平成12年度入学試験に関する件
4. 教授選考に関する件
5. その他

- 1) 学長予定者選考規程改正委員会委員及び学長辞任請求規程改正委員会委員の委嘱について
- 2) 学長予定者選挙管理委員会委員の委嘱について
- 3) 機器共同利用センター運営委員の変更について
- 4) 各種委員会委員の変更について

(8月6日)

1. 臓器別内科診療科編成と内科学 (I) 講座担当教授の選考問題について

(8月23日)

1. 内科学 (I) 講座担当教授選考委員会委員の選出問題について

(9月8日)

1. 人事に関する件 (助教授の任用他)
2. 第6学年仮進級者の前期試験不合格科目の可否判定に関する件
3. 学則の一部変更に関する件
4. 内科学 (I) 講座担当教授選考委員会委員の委嘱に関する件
5. 学長予定者選挙管理委員会委員長の委嘱に関する件

(9月22日)

1. 人事に関する件 (助教授の任用について他)
2. 第3学年前期進級可否判定に関する件
3. その他

- 1) 教授選考について

(10月6日)

1. 人事に関する件 (学内講師の任用について他)
2. 大阪府三島救命救急センターの非常勤講師任用に関する件

3. 脳神経外科学講座担当教授の選考並びに選考委員の選出に関する件

4. その他

- 1) 内科学 (I) 講座担当教授選考に関する件
- 2) 学長予定者選考規程改正委員会及び学長辞任請求規程改正委員会委員長の委嘱について
- 3) 機器共同利用センター運営委員会委員の変更について
- 4) 組替えDNA実験に関する安全委員会委員の変更について
- 5) 総合試験委員会委員の変更について
- 6) 卒後研究検討委員会について
- 7) 単位認定と進級判定について
- 8) 平成11年度日本育英会奨学生 (大学第一種及びきぼう21プラン) の追加推薦について

(10月20日)

1. 人事に関する件 (講師の任用について他)
2. 脳神経外科学講座担当教授選考委員会委員の委嘱に関する件
3. 単位認定と進級判定に関する件
4. その他

- 1) 新GCPに伴う治験センター設置について

[大学院医学研究科委員会]

(7月21日)

1. 学位論文審査結果に基づく合 (可) 否決定に関する件
2. 第1学年大学院生の退学願出に関する件
3. 研究生の願出に関する件
4. 学外研修願出に関する件

(9月8日)

1. 第1学年大学院生の退学願出に関する件
2. 第2学年大学院生の退学願出に関する件

(10月6日)

1. 平成12年度大学院学生募集に関する件

(10月20日)

1. 学位論文受理に関する件
2. 研究生の願出に関する件

主な行事日程表

11月1日から平成12年1月31日までの学内に
おける主要な行事予定は次のとおりです。

- 11月9日（火）理事会
10日（水）教授会・大学院医学研究科委員
会
11日（木）看護専門学校推薦入学試験
（第一看護学科・第二看護学科）
17日（水）医学会秋季学術講演会
19日（金）関連病院長会議
24日（水）教授会・大学院医学研究科委員
会
27日（土）理事会
12月1日（水）第5学年臨床実習に関するオリ
エンテーション
4日（土）実験動物慰霊祭
8日（水）教授会・大学院医学研究科委員
会
13日（月）学位論文提出のための語学試験
第6学年後期試験Ⅱ（17日まで）
14日（火）理事会
18日（土）第5学年プレテスト（24日まで）
20日（月）看護専門学校入学願書受付開始
（第二看護学科：1月14日まで）
21日（火）看護専門学校冬期休業（1月7
日まで）
22日（水）教授会・大学院医学研究科委員
会
25日（土）医学部学生冬期休業
28日（火）理事研究会
1月4日（火）年賀交歓会
大学院医学研究科入学願書受付
開始（18日まで）
5日（水）教授会・大学院医学研究科委員
会
第5学年診断学実習開始（7日
まで）
医学部及び看護専門学校入学願

書受付開始

（医学部：1月31日まで）

（第一看護学科：1月21日まで）

- 11日（火）理事会
第1・2・3・4学年授業再開
第5学年臨床実習開始
14日（金）学位論文受付締切
19日（水）教授会・大学院医学研究科委員
会
24日（月）看護専門学校第二看護学科入学
試験（25日まで）
25日（火）理事研究会
28日（金）第8回教員ワークショップ（於
京都・パレスサイドホテル 30
日まで）
30日（日）看護専門学校第一看護学科入学
試験

附 属 病 院

平成12年度臨床研修医募集要項

平成12年度本学附属病院の臨床研修医募集要項が下記のとおり決定いたしました。

募 集 要 項

1. 募集人員

全科で100名以内とする

2. 研修科目

第 一 内 科,	第 二 内 科
第 三 内 科,	精 神 神 経 科
一般・消化器外科,	胸 部 外 科
脳 神 経 外 科,	整 形 外 科
小 児 科,	産 婦 人 科
眼 科,	耳 鼻 咽 頭 科
皮 膚 科,	泌 尿 器 科
放 射 線 科,	麻 酔 科
齒科口腔外科,	形 成 外 科

中央検査部・病態検査学

3. 応募資格

原則として当年施行の医師国家試験合格見込の者および医師免許証を有する者

4. 出願期間

平成11年12月 1 日（水）から

平成12年 1 月31日（月）まで

5. 提出書類

(1) 臨床研修医願書

(2) 履歴書（JIS日本工業規格使用、上半身の写真を貼付のこと）

(3) 住民登録票

(4) 卒業（見込）証明書および推薦書

(5) 健康診断書

(6) 国家試験合格証書又は医師免許証（写）

6. 研修方法

可能な限りスーパーローテイト方式を採用する予定

7. 選考方法

各科個別におこなう

詳細は、各科より出願者に通知する

8. 臨床研修許可発表

郵送をもって通知する

9. 臨床研修開始予定 平成12年 5 月 1 日（月）

なお、臨床研修実施にあたり医師国家試験発表後各科において打ち合わせを行い、平成12年 4 月28日（金）に全科合同のオリエンテーションを行う予定

10. その他

各科研修プログラムは別にさだめる

詳細についての問合せは下記まで

大阪医科大学附属病院 病院サービス課

TEL (0726) 84-6305 [直通]

平成11年度上半期附属病院患者動態

本年度上半期の患者動態は下記のとおりです。

（平成11年 4 月～平成11年 9 月）

	入院患者数	外来患者数	対前年度増減率%	
			入院患者数	外来患者数
H11. 4	(870. 3) 26, 110	(2823. 0) 64, 930	△ 2. 13	4. 41
H11. 5	(861. 1) 26, 693	(2762. 9) 58, 020	△ 1. 09	△ 0. 12
H11. 6	(900. 9) 27, 026	(2769. 8) 63, 705	0. 85	1. 74
H11. 7	(879. 4) 27, 262	(2749. 6) 65, 990	△ 2. 52	△ 0. 29
H11. 8	(869. 2) 26, 945	(2662. 3) 63, 895	△ 2. 84	5. 04
H11. 9	(858. 6) 25, 759	(2880. 5) 63, 371	0. 02	1. 34
合 計	(873. 2) 159, 795	(2773. 1) 379, 911	△ 1. 31	2. 01

() 内は、1 日平均患者数

* 平成11年度上半期入院関係稼動日数183日（平成10年度も同）

平成11年度上半期外来関係稼動日数137日（平成10年度も138日）

院外処方発行全科一斉にスタート

大阪医科大学附属病院における院外処方

大阪医科大学附属病院薬剤部部長 竹中 洋

去る8月16日から大阪医科大学附属病院では全科一斉に院外処方発行に踏み切りました。その経過について記憶が鮮明なうちにまとめておく必要があると感じていた矢先に学報に記事掲載の依頼があり、メモとして残していたものを整理して報告致します。

1. 院外処方発行の経過

2月の末に田中理事長から4月1日付で薬剤部部長の兼務のお話があった際、正直なところ現実の薬剤部問題について知識も情報もありませんでした。しかし日本耳鼻咽喉科社療委員会の委員をしていることから、①医療において病院薬剤師の職務について位置づけがなされていないこと、②薬価差益がなくなる方向で医療改革が進むことなどが直近の課題であることは理解していました。

縁あって薬剤部長を兼務して最初に薬剤部問題委員会（清水副院長）の指摘事項の把握（院外処方推進など）と職員全員からの意見聴取を行いました。4月ではほぼ作業を終了しましたが、病院薬剤師とりわけ大学病院の薬剤師がすべき職務が不明瞭でありました。佐々木院長にお願いをして5月連休明けに、薬剤部問題委員会（竹中担当）の実務委員会として「薬剤師業務見直し委員会」と「院外処方推進委員会」を立ち上げました。

前者は薬剤部のなかで日常業務を点検し、薬剤師免許が必要な職務であるか否かを徹底的に洗い直すことを目的とし、薬剤部構成員から均等に委員を選びました。後者は従来院外処方を発行していた、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科などは除き、今後の展開に必要なメジャーな臨床科を中心として、外来医長・病棟医長クラスに委員をお願いし、院外処方のいろはから論じても

らうことにしました。また看護部、医事課にも参加をお願いし、オブザーバーとして高槻市薬剤師会からも意見を頂くことにしました。

5月の末までに週2回延べ18時間かかって、薬剤師業務見直し委員会が問題点を呈示することができました。この時点で服薬指導や病棟薬剤師および治験センターへの取り組みを除いて特定機能病院薬剤部としての方向性がないことが判明しました。そこで院外処方推進委員会に院外処方早期実施について意見をまとめて頂くをお願いしました。その結果内科や外科の先生方が抱えていられる院外処方の問題点が案外シンプルであることが判明しました。一つは患者の自己負担増加の問題、もう一つは外来診療の混雑、最後に病名告知を含めたインフォームドコンセントにつきました。最後の問題点は院外処方とは別に緊急課題として我々大学人が等しく抱えている問題であり、個人的には院外処方を契機に本学で真剣に討議されるべきと考えました。

7月に老人健康保険で薬剤一部負担金がなくなることで、8月に処方枚数が年間で最低になることを知り、Xデ이를8月16日に設定し、佐々木病院長以下病院のスタッフと相談を重ね理事会へ上げて頂きました。同時に本院の様な巨大施設からの院外処方が高槻市薬剤師会だけでは対応できるとは考えられず、大阪府薬剤師会に直接お願いをし7月21日からかかりつけ薬局紹介について全面協力の約束を頂いた。

2. 全科院外処方発行

病院での文書公告を7月18日に行い、21日から大阪府薬剤師会の保険薬局登録案内が始まりました。当然起こる患者動線の変更、オーダリング入力の変更と問題点について、医事課と薬

剤部で連夜断続的な話し合いが持たれました。看護部や病院医療情報部を交えた意見交換は患者対応の実務部分であり真剣な論議が尽くされました。各部門の献身的なご努力でおおよそ流れが決まったのが8月第1週で、9日夕方にはリハーサルを行いました。会計を含めた外来医事コーナーの変更は13-14日の時間外に工事が行われました。看護部には16日から、病院1階部分で患者説明・案内の先頭にたって頂きました。医事課や看護部の働きに誘発されて、薬剤部の対面業務はスタートを迎えたことになります。

一方、薬剤部門における業務見直しに一応答えがでたのが7月上旬でした。院外処方と言う新規事業では外来コーナーで処方監査が始まり、薬剤部でも一時的に業務量が増大するため全員に夏休みを返上してもらいました。

16日の初日に院外処方が30%を超えた時は、予想どうりであったが感激はひとしおでした。その後院外処方は順調に推移し、10月に入って

50%を超えました。このまま推移すれば来春から病棟薬剤師は3人から5人に、治験センターコーディネーターも新設が可能となる予定です。

3. この2カ月を振り返って

何度も述べているように、大過なくスムーズに院外処方化が推進されたのは、教授会を中心とする医師サイドのご理解、看護部のバックアップ、医事課のご協力、薬剤部の不退転の決意など、全ての構成員のお力添えの結果であります。また、患者様の本院に対する絶対的な信頼がベースにあることも肝に銘ずるべきであり、この信頼を勝ち得た先人のご努力に心より感謝致しております。

願わくは年内に院外処方率が80%に達すればと考えています。その理由は本院で使われる薬剤が明確になって初めて購入や物流の問題が遡上に昇るからです。次年度に問題を残しながら、当面は病棟や外来で薬を通じて貢献できる薬剤部の道を求めて参ります。

本学教員・職員の皆様へ

過去3ヶ月間に、研究や業務に関する事項で、学外の機関から賞を受けられたり表彰された方は、総務部学報担当(内線2616)までご連絡下さい。

お詫びと訂正

前回発行の41号に一部誤りがありましたので、お詫びし訂正致します。

P.18 (人事)〔法人〕

理事

就任 原 亮太 → 就任 原 亮多

P.27 受託研究について

4行目 研究開発費

4394万3531円 → 6853万円

保健管理室からのお知らせ

平成11年度、教職員定期・生活習慣病健康診断を10月1日～10月15日（実質8日間）、3週間に亘って実施しました。結果については未だ集計を終えていませんので今回はお知らせすることができませんが、胸部レントゲン撮影については昨年に比べ約10%上っているようです。詳しくは次回報告する予定です。

インフルエンザワクチン接種（1回目）終える

昨年度はインフルエンザの流行で老健施設等での集団感染や学級閉鎖が相次いだこともあり、予防接種に対する認識が高まったのか今年は申し込みが多くありました。

1回目は10月20日、21日の2日間実施しました。インフルエンザワクチン接種による副反応として局所の発赤、腫脹、疼痛など、また全身反応として、発熱、悪寒、頭痛、倦怠感等を認めることがありますが、通常2～3日中に消失すると言われていますので、接種当日は過激な運動は避け、接種部位は清潔に保つようにして下さい。

使用ワクチン…インフルエンザHAワクチン「北研」：北里薬品産業（株）

〃 注射……………26Gテルモシリンジ ツベルクリン用

インフルエンザワクチン接種状況

教職員	平成10年	平成11年	医学生	平成10年	平成11年
教員（基礎系）	2	7	1年	1	1
〃（臨床系）	4	42	2年	0	4
職員 （教員、看護部以外）	5	11	3年	0	2
看護部	3	28	4年	0	5
			5年	4	9
			6年	20	41
合計	14	88		25	62

2回目のワクチン接種は11月10日、11日の予定です。必ず2回行って下さい。

時間：午後2時30分～3時30分

於：保健管理室

掲示板

B型肝炎ワクチン接種（3回目）

実施日 平成11年12月1日（水）、2日（木）午後2時30分～3時30分

場 所 第10会議室

大阪医科大学俳句会（七／八月）

鯖鯨の一夜を竹の皮の中

塚本 務人

砂丘にも天辺ありて秋の声

同

歪でも自作のジヨッキビール旨し

今井 雄介

女気をさらりと忘る蓼の花

古川 洋子

頭でつかちサイズで選ぶ夏帽子

中川 一成

消ゴムほど丸くはなれず鳳仙花

奥田 筆子

なめくぢり機械が畳む新聞紙

吉田 孝江

いそぐなよ足短かめに茄子の馬

飯塚 久子

鯖の道狐は雲を見てゐたる

山崎 隆司

明治村明治の汽車は扇子かな

同

梅雨茸明日まで待てぬ手紙出す（投稿）美濃 眞

盗賊のやうな語らひ熱帯夜

同

投句のお誘い

一般の方も投句（何句でも）して下されば、当句会で会員の出句と同じように選句します。入選句は当欄に掲載します。

宛先は

〒569-0084 高槻市沢良木町2-41

大阪医科大学さわらぎキャンパス

俳句会

皆様の参加をお待ちしております。



メタセコイアは、別名「あけぼのすぎ」と呼ばれ、現生種は1943年に中国四川省で発見されたものである。

まっすぐに伸びた幹に毛皮のように厚く紅葉した葉を纏って美しく冬の訪れを待っている。寒い冬が来る前に茶色い葉は枝と共に落ちて、幹だけが美しい標本のように空に向かって立つ、そんな清々しい姿になるのももうすぐだ。

その柔らかな幹に、静かにまた年輪が加わっていく。

大阪医科大学学報 第42号

発行年月 平成11年11月

発行 学校法人 大阪医科大学

編集・発行 総務部

大阪医科大学ホームページ

<http://www.osaka-med.ac.jp/OFFICE/>